

地域公共交通あり方検討会に寄せられた市民の声

○意見1

香日向を通り～東鷺宮駅までのバスの運行を再開して欲しい(香日向を通り～矢作整形外科～東鷺宮病院～東鷺宮駅のルートで運行)

理由: 今後は高齢者が増え、運転免許証返納者も増え、駅や病院等、出かけるときの交通面で困る事が目に見えていますので、バスの運行で朝夕の便を多く充実させていただくと通勤・通学・病院・買い物などの日々バスの運行時間に合わせていつでも利用できるという事で希望いたします。

○意見2

忖度のない意見としては、利用者のわがままが凄いなという印象を受けました。本来の市内循環バスの目的を大きく超えた要望が多いように感じます。

私の意見としては、乗合のタクシーを活用するのが有効ではないかと思いました。

電話またはアプリで乗車する時間や場所を管理できれば、コストはそこまでかけずにニーズを解決できると思います。(市内循環バスで解決するよりは、はるかに回数や時間の無駄なく解決できると思います)

実際、北本市に住んでいたときは乗合のタクシーを良く利用していました。

アプリで解決した方が良かった理由は他にもあり、場所に限らず要望があった時間や場所を特定できるからです。

利用料については、一回の場合と月額等の複数用意するのが良いのではないかと思います。

バスではなくタクシーと言った理由は、単純に小回りがきくからです。バスの場合、決まった時間とコースがあるため、資料にあったような身勝手な意見が多いと思います。

タクシーであれば、同じような時間帯、行き先で利用ができます。

そのため、利用者もタクシーの運転手も無駄が省けます。

最後に、利用者に幸手市の市内循環バスの目的を改めて伝えるべきだと思いました。

公共交通は自分のためだけではないと理解してもらう必要があると思います。

○意見3

1. 公共交通の優先順位毎の考察

1.1 最優先ルート: コミセン⇄東鷺宮駅

1) 乗合型デマンドタクシー

①令和7年7月より、便の追加(12時発、12時30分発)や事前予約時間の

変更(2 時間前→1 時間前)等により、利便性は高まった。これは、令和 6 年度の検討会の成果であったと予想する。

- ②東鷺宮駅からコミセンへの戻り便の最終が 16 時 30 分では、大宮や都内での行動時間に制約が大きく、利便性が低いと感じる。利便性を改善し、利用者を増やすには、16 時 30 分の 18 便以降に 2 便程度増便し、最終便を 19 時 30 分頃出発とすることと考える。仮にこの追加便が、通常のタクシー業務に支障をきたす可能性がある場合、コミセン発の 11 便(13 時)、13 便(14 時 10 分)、15 便(15 時)、17 便(16 時)の 4 便を削減してはどうだろうか？(中休運行:朝と夕方の利用者が多い時間帯に集中的にバスを運行し、日中の時間帯を長い休憩にあてる勤務体系)

2) 市内循環バス

- ①上記東鷺宮駅→コミセンの 18 便(16 時 30 分)以降の増便が難しい場合、市内循環バスで補完することができないか？具体的には、東鷺宮駅 18 時 30 分頃発の市内循環バスルート新設(コミセン⇄東鷺宮駅、または西 A ルートの延伸)。

1.2 重要ルート:コミセン⇄市役所、コミセン⇄幸手駅

1) 市内循環バス

- ①令和 6 年度の検討結果にも記載されている様に、利便性を阻害する幾つかの要因がある。
- ②最小限の改善案としては、検討結果中に提言されている一方向運行から二方向運行(反対回りの運行の追加)が必要と考える。

2) 乗合型デマンドタクシー

- ① 実現できれば香日向地区住民にとって助かるが、限られた予算を考えた場合、優先度は低いと考える。

2. 検討課題に関するコメント

検討結果の13P～15P に記載されている「想定される課題」に関する考えを以下に報告する。

2.1 社バス・学バス等との連携(No.3)

1) 幸手看護学校送迎バス

- ① 東鷺宮駅に向かう幸手看護学校の送迎バスは、空席で運行しており有効活用が望まれる。
- ② これは市の検討課題というより、香日向自治会と幸手看護学校間での検討課題であり、幸手市経由で自治会への働きかけが必要と考える。

2.2 都市再生特別措置法第 81 条 1 項(No.8)

1) 歩行者・自転車に優しいまちづくり

- ① 電動アシスト自転車によるシェアサイクルサービスの導入は、狭い道路が多い幸手市では、交通事故の危険性が高まると予想する。
- ② ただし、将来的には「道の拡張」・「自転車専用道路の整備」等を進めることは、重要な施策であり、その一環としてこの電動アシスト自転車によるシェアサービスを導入していくべきと考える。